

交牧連の活動日誌

～みんな違う みんな仲間～

第20回 “外”に飛び出す新時代の後継者育成

ショーに参加し酪農家から 飼養管理など技術を学ぶ

地域交流牧場全国連絡会九州ブロック(熊本県熊本市 熊本県立熊本農業高等学校畜産科主任) 吉永 憲生

酪農体験会参加前後のイメージの変化を調査

県立熊本農業高校は1899(明治32)年4月1日に開校し、今年度で124年を迎えた歴史ある高校です。校訓に「敬天愛人」を掲げ、現在も河村九淵初代校長の「其手足を低き地に働かし、心を高き天に置けよ」という教えが連綿と受け継がれています。

畜産科は1963年に新設され、多くの畜産後継者を輩出してきました。卒業生の多くは、県内で畜産を営む他、農業団体をはじめとする各分野で熊本県の畜産をけん引しています。

9月には酪農体験会を開き、熊本市内の小学生とその保護者15組が参加しました。体験は牛への餌やりの後、子牛への哺乳や手搾りの搾乳を行い、最後にバターづくりと試食という流れで、企画から運営の全てを畜産科3年生専攻生が行いました。

畜産科3年生は生徒自らがテーマを設定し、1年間調査研究を行う「課題研究」という授業があり、年度末にその活動を発表しています。体験会を主に担当した班は「酪農体験学習における体験者の変容」をテーマに、体験前後の牛や酪農に対するイメージの変化について調査しました。

体験会の初めのうちは若干不安な様子が見られた小学生も、餌やりを通して牛との距離がグッと縮まっていた。哺乳体験に移る頃には積極的に子牛に触れたり、何度も哺乳を行ったりと明らかにその行動の変化が見て取れました。今回の体験会を通じ、92%の小学生が体験前よりも酪農へのイメージが好意的なものに変化。子どもたちの姿に引っ張られるか

のように保護者も充実した表情を浮かべるようになりました。

運営に当たった生徒はその前の8月に行われた地域交流牧場全国連絡会九州ブロック主催の「令和5年度第1回わくわくモーモースクール」に参加し、長崎県佐世保市にある酪農教育ファーム認証牧場・備さとむら牧場で酪農教育ファームの実態を体験していました。

こうした企画は本校でも年2回程度実施してきましたが、日常的に体験学習会を開いている酪農家の企画に参加するのは初めてで、そこでの経験が生徒たちの意識高揚に大きく寄与しました。今後も外部との連携を密に取りながらより良い酪農教育や体験学習活動につなげていきたいと思っています。

全国の酪農家と交流し 産業の実際に触れられるショー

本校の酪農教育でもう一つ特筆すべき点はショー



熊本市内の小学生が参加した酪農体験会の様子



全日本ブラックアンドホワイトシヨウ・セントラルジャパンホルスタインシヨウに出品した牛と、本校の生徒(写真手前)



牛乳の日(6月1日)に合わせて、生徒たちが感謝を伝えるメッセージを発信

活動です。4月には静岡県御殿場市で開催された第10回全日本ブラックアンドホワイトシヨウ/2023セントラルジャパンホルスタインシヨウに参加。全国から集まったハイレベルな牛たちと改良や飼養管理の技術を競う経験ができました。

2回目となった今回は、育成牛1頭を出品し生徒3人が参加。本県選手団と共に陸路で会場まで牛を搬入し、ショーまでの飼養管理法を教わりながら技術の習得に努めることができました。ショーは牛の改良技術を磨くことはもちろん、地域や全国の酪農家、さらには他県の高校生との交流を通して、酪農という産業の実態に触れられるところに魅力があります。この大会でもプロの酪農家の出品牛よりも上位の成績を残した他県の農業高校の生徒たちと交流ができ、生徒たちは良い刺激を受けることができました。今後もショー活動を通して酪農業への興味・関心を高め、さらに人とのつながりを深めることで、将来の目標について考える機会を生徒たちに提供していきたいと思っています。

本県は、生乳生産量で全国3位を誇る酪農県です。酪農情勢が厳しい現在にあって、持続可能な産業であるために重要なのが人材の育成であることは言うまでもありません。本校畜産科で学ぶ生徒120人が酪農に触れ、その実態を理解し、地域と連携を図りながら外部の人・組織

と協働することが今後ますます重要になると考えています。決して学校内だけで完結せず、学校を飛び出しさまざまな経験を得ながら知識や技術を習得し、産業の実態から学ぶ機会を大切にすることが、新時代の畜産後継者育成に必要なだと強く思います。全国的に農業高校数が減少し、畜産科がある学校は少なくなってきましたが、そのともしびを消さないよう、生徒と共に進化する学科運営に励んでいきます。

【牧場概要】

牧場名 熊本県立熊本農業高等学校
代表者名 校長 田畑 淳一
所在地 熊本県熊本市元三町5丁目1番1号
総飼養頭数 乳用牛15頭(うち搾乳牛9頭)、肉用牛10頭
年間生産乳量 85 t
飼養形態 放し飼い(フリーストール)
自給飼料(ha) 2.8ha
畜産科生徒数 1~3年生計120人
交牧連加入年 2021年
主な活動:酪農教育ファーム受け入れ、中学生への体験学習会開催(年2回)

地域交流牧場全国連絡会(交牧連)に関するお問い合わせ先

(一社)中央酪農会議内交牧連中央事務局
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295
メール: koubokuren@churaku.jp
ホームページ: https://www.dairy-farm.jp/
フェイスブック: https://www.facebook.com/koubokuren



【交牧連 HP】

YAGINUMA Body

全国対応可能

※写真:家畜運搬車例

有限会社 柳沼ボデー工場

https://yaginuma-body.jp

詳しくは WEBで

受付時間: 8時~18時
休日: 第2土曜/日曜日・祝日